

日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.80

2023年3月20日
発行

発行人：野尻紀恵 編集委員：熊谷紀良 松山 毅 梅澤 稔

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町 16-30 シンエイ木町 1F

[事務局：全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)] Eメール jimukyoku@jaass.jp

会長の就任にあたって

会長 野尻紀恵 (日本福祉大学)



第28回大会(神戸大学)の総会で、本学会会長に就任させていただきました。思い返せば、第11回こうべ大会―震災10年記念大会―で実行委員であった私は、その頃「福祉教育プログラム検証」をテーマに研究をスタートしていた。

私自身が神戸市内の高等学校教員であった時に福祉教育を担当し、そして阪神・淡路大震災を経験した「まち」でのボランティア学習と市民性形成のプロセスを間近に見てきた。一方、その後も私たちは災害、新型コロナウイルス感染症など、幾多の危機に直面してきた。危機に面した時、差別や偏見、そして憎悪が顕在化することを何度も経験してきた。それでも人が人として人と関わり続ける営みは止まることはなかったことも、事実として知っている。

そのような事実を、私たち一人ひとりに内在化される価値としていく営みが問われているのではないか。まさに、従来の社会の枠組みを越えて、さらには福祉や教育の隙間を越えて、まさに福祉教育・ボランティア学習のプロセス、あり方が問われている。

3年間のコロナ禍を経て、今では普通に「対面で」とか「オンラインで」とかという言葉が使われているのも、以前には考えもしなかったことだ。こうやって世の中は変わっていくのかもしれない。そういえば、ある量販店のお会計では、レジ籠を載せれば、籠の中にぐちゃぐちゃに商品を入れていたとしても、2秒もかからず計算してくれて、支払いができるようになっている。スマホ決済や交通系カード決済も進んでいるので、店頭で現金支払いするのは遅れている人のようで少し恥ずかしくなったりするのも妙な感じだ。先日行ったスーパーでは自分のスマホでバーコードをスキャンしながら買い物し、レジではすでに合計された金額を支払うのみだった。「いつの間に？」と驚き、「そういえば」と気付いたりする。だけれど、それには結構すぐに慣れるものだ。こうやって世の中は変わっていくのか。

感慨深い。いや、しかし「私」は取り残されないだろうか。隣の方はついていけるのだろうか。人は「くらし」を思い描き、歩み、この時代を生きていく。自分や他者の「くらし」を思い描き、共に歩み、この時代を生きていくために、さまざまな側面で人の生き方、社会のあり様が問われるこの時代にあって、私たちの学会は研究・実践をさらに発信・提言していかなければならない。

本学会は継続的に赤字構造を抱えている。福祉教育・ボランティア学習を大切に想う同志である会員拡大を目指し、また次の3点に着手したい。

1. 学際的な研究領域から注目される研究水準と求心力を発揮する学会。
2. 実践の広がりとは多様な実践主体のネットワークがある学会。
3. 社会への発信・提言ができる学会。

これまで学会を積み上げてくださった諸先輩方の研究や実践に学び、次の時代に橋をかける学会でありたい。会員の皆さまのお力添えをこころよりお願いいたします。